

令和 6 年度 学院関係者評価委員会報告書

中通高等看護学院

令和 6 年度の自己点検・自己評価結果をもとに、学院関係者評価を実施しましたので報告いたします。

学院関係者評価委員（3 名）

実習施設 実習指導者 2 名

同窓会代表（卒業生） 1 名

令和 6 年度 自己点検・自己評価に対する学院関係者評価委員のご意見、ご助言、感想等

	意見・感想等
I. 教育理念・教育目的	・明和会の理念に基づいた教育理念の基に取り組まれていることがわかりました。学生自身が教育理念を意識し、授業や実習を通して実感できるような環境を期待します。今後も、地域に貢献できるような考えをもった看護師育成を期待します。 ・社会医療法人明和会の理念の基に教育理念、目的が学生便覧やシラバス、実習要綱に明確に示され、いつでも目に入る点が良いと思います。 ・社会医療法人明和会の理念に基づいた教育理念・教育目的が明示されています。病院の看護師要件にも繋がっており、とても良いと思いました。学生観が明確に示されると、育成側の支援も明確になり、より効果的な卒後教育に繋がると思います。
II. 教育目標	・新カリキュラムによって、学生がより目標を明確に取り組めるようになったのではないかと思います。卒業後のことを考えて取り組んでいることもわかりました。近年の学生、新人を見ると、コミュニケーション能力や主体性・協調性が低くなってきているように感じる場合があります。そういった力がさらに身につくよう期待します。 ・学生自身がビジョンを考え評価することで自己を振り返り、次につながる目標を考える機会にもなっていると考えます。学生期間だけでなく、卒業後のキャリア開発ラダーに繋がる内容となっている点が素晴らしいと思います。 ・教育理念、教育目的に繋がる一貫性のある教育目標設定になっていると思います。看護学院の教育から入職後の看護師要件やキャリア開発ラダーなどの職員教育に繋がる目標になっていると思いました。
III. 教育課程経営	・教育課程を明確にして取り組んでいることがわかりました。教員の人数が増えた分、それぞれの考えや取り組み方が出てくると思います。その分、一貫した教育課程が提供できるよう工夫が必要だと思います。より良い内容で学生が学べるよう、実習の中で取り組めることがありましたら協力します。 ・感染対策に力をいれている点は実習中にも感じられます。接遇対応を強化し、社会人基礎力向上に努めてもらえればと思います。教員の業務量を評価し協力体制を整えることで相互の研鑽にもつながるのではないかと考えます。

	・「地域の理解」や「在宅ケアシステム」、「認知症看護」等のカリキュラムが追加され、地域社会の現状を捉えたうえで、関連する法人の理念に沿った教育体制になっていると思います。 実習受け入れ施設として、実習指導者講習会修了者の計画的な育成を継続し、卒業後共に働く職員となる学生を育成するという意識を持って、手厚い支援を継続していきたいと考えています。
IV. 教授・学習・評価課程	・シラバスに沿って授業が進められ、国家試験を意識して取り組まれていることがわかりました。授業内容が、どのように看護に活かされていくのかを学生が実感でき、看護のやりがいや楽しさにつなげられるよう期待します。 ・学生にも評価の基準がわかりやすく、評価方法も公平性が保たれていると思います。 ・シラバスを明示し、国家試験出題基準に沿った授業が展開されていることがわかりました。また、教職員の専門性を発揮できる体制の構築に苦慮されていることもわかりました。教職員の働く環境を整えることで、学生がのびのびと学びやすい教育環境となるよう期待しています。
V. 経営・管理課程	・現代の学生に合わせた教材を確保し、講義内容が幅広く考えられていることがわかりました。実習を通し、今の学生は恵まれているなど感じることも多々あります。しかし、学院で恵まれた環境で学んだことを、実習と結び付けて十分に活用されていない学生も見つけています。たくさんの学びが、実践を通して学べる機会がもっと増やすことができるよう、それが学院の魅力となるよう、協力したいと思います。 ・学院建物の保守整備を行い、学生がよりよい環境で学べるように努める必要があると思います。カリキュラムや組織体制だけでなく、建物などの施設環境で入学先を選ぶ人も多いと思います。財政問題もあると思いますが、より良い環境で、学生・教員が学べるよう期待します。 ・ICT教育推進に伴い実習の場では厚い教科書を沢山持ち歩く必要がなく、タイムリーに調べることができる点が良いと思いました。 ・規定の整備や会議により教職員の意思統一が図られていることがわかりました。研修や学会参加など教職員の学ぶ機会を計画的に作ることによって、授業内容の質の向上に繋がると 생각합니다。ICT 教育を推進させ、現代の若者の学びやすい環境が整いつつあると思いますので、今後はハード面の改善・充実により学生確保に繋がれば良いと思いました。
VI. 入学	・入学者が年々減少しているということは、そこから明和会への就職者も減ってくることに繋がるのだと日々実感しています。コロナ禍で医療従事者の現状が社会に知れ渡ったことで看護師の必要性が注目される一方で、その大変さゆえに「看護師になりたい」と思う人が減少しているのかもしれませんが。明和会の人員確保のためにも、まずは学院に入学してもらうことが望ましいと思います。難しいと思いますが、早期に入学者が確保できるよう、他施設との違いや魅力的を伝える手助けができればと思います。

	・受験者、入学者が減少していく中で学院の基本方針を明確にしている点やSNSを活用し学院の特色をアピールすることは、学院に興味を持ち受験して入学するきっかけにもつながると考えます。学院の素敵ところは沢山あるので、在校生と協力しながらホームページ等活用していくことも良いのではないかと思います。 ・アドミッションポリシーを明確にして入学者選抜方法を検討していることがわかりました。入学者数増加に向けた様々な取り組みが実を結ぶことを期待します。
VII. 卒業・就職・進学	・卒業後に学生が困らないように技術習得指導に取り組んでいることに、臨地実習で感じます。近年では、明和会に新卒で就職する人も減ってきていることを実感します。就職後も、3～5年経つと辞めていく方が多いのが現状です。卒業生の動向が少しでも明確になるよう、協力できればと思います。 ・卒業後のラダー評価で学院での学びが身についていることがわかり嬉しく思いました。今後も評価を続けていくことで学生への効果的な指導に繋がっていくと思いました。 ・多くの卒業生が法人内に就職しているため、当院のクリニカルラダーで卒業後の進捗状況を共有できることはとても有益だと感じました。
VIII. 地域社会/国際交流	・インスタグラムを拝見しました。学校の様子や取り組みが、今後の看護学生の確保にも役立つことを期待します。 ・学校の授業と臨地実習での出来事が結びついている場面が実習を通して感じるものがありません。実習を通して、自分たちがどのように患者さん・地域と関わっていくかを意識できるよう今後も協力できればと思います。 ・地域とのつながりを看護師の視点で考え、地域のニーズにも着目できるような取り組みが進むといいと感じました。 ・SNSを活用した取り組みは新たなつながりや地域との交流の場にもなると考え良い方法だと思いました。海外で活動する卒業生がいることを知る在校生は少ないと思うので様々な働き方や選択肢があることを知ることや現場の声を聞くことで学びにつながると思いました。 ・地域社会と直接的な繋がりを持つには現状難しいと思われませんが、日々の講義の中や実習を通じて学びが深まることを期待します。外国人次第として、医療英語、国際看護の知識は重要と感じています。
IX. 研究	・教員が、実習に講義にと忙しくしている姿を見えています。昔に比べ、教員の人数が増えた印象はありますが、学生の学力低下や、学生への配慮、指導の細やかさなど昔に比べ手厚くなったことで、教員一人にかかる負荷は大きくなる一方だと感じています。学生としっかり向き合うからこそ時間がかかるのだと思います。教員の方々が研究に取り組める時間の確保ができるよう可能な限り職場環境を整備して欲しいと考えます。 ・カリキュラムの改正や日々の授業、実習業務など教員の業務が多岐にわたっており研究時間の確保は難しいと思われまう。研究をすることで教育者の負担になることも懸念されるため、日々の業務のなかで研究に取り組むことのできる体制づくり

	や研究にとらわれず学びを共有しあえる場があれば自己研鑽にもつながると考えます。
--	---

	・研究活動を助言・指導する体制が不十分なことが分かりました。当院で協力できることがあれば協力していきたいと考えています。
--	--